
会社説明資料

－ 2023年3月期第2四半期 －

2022年12月

株式会社 **じもとホールディングス**

株式会社 **きらやか銀行** 株式会社 **仙台銀行**

目次

1. 2023年3月期第2四半期グループ決算の状況

① 決算の概要	…	1
② 資金利益	…	2
③ 貸出金・預金	…	3
④ 有価証券	…	4
⑤ 役務取引等利益	…	5
⑥ 経費、経営効率化	…	6
⑦ 与信関係費用、金融再生法開示債権	…	7
⑧ 自己資本比率、ROE	…	8
⑨ 中期経営計画目標と実績	…	9
⑩ 2023年3月期 業績予想と配当予想	…	10

2. 中期経営計画の進捗状況

① 経営理念と目指す姿	…	11
② 本業支援	…	12
③ 業務変革（DX）	…	13
④ 経営管理	…	14
⑤ SBIグループとの主な連携状況	…	15
⑥ グループ業績改善への取組み	…	16
⑦ 2023年度収益見通し	…	19

3. じもとグループのサステナビリティ

① サステナビリティ基本方針	…	20
② 本業支援を通じたサステナビリティ	…	21
③ 主要課題への取組み	…	22
④ 人事戦略、投資	…	24
⑤ トピックス（きらやか銀行、仙台銀行）	…	27

1. 2023年3月期第2四半期 グループ決算の状況

① 決算の概要 – きらやか銀行が赤字決算、HD中間純利益は△40億円 –

- 当社グループの**経常収益**は、有価証券利息配当金の減少等により、資金運用収益が減少したことなどから、前年同期比△994百万円の**18,817百万円**となりました。
- **経常利益**は、きらやか銀行における特定の大口与信先の業績不振により、当該先に関連する引当金を計上したことなどから、前年同期比△3,665百万円の**△1,269百万円**となりました。
- **親会社株主に帰属する中間純利益**は、きらやか銀行における店舗再編に伴う減損損失、法人税等調整額の見直しもあり、前年同期比△5,673百万円の**△4,068百万円**となりました。

(単位：百万円)

	連結（一部2行合算）		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比
経常収益	18,817	△994	8,794	△440	7,442	△540
業務粗利益	13,506	△882	7,301	△474	6,155	△495
資金利益	11,984	△948	6,268	△488	5,838	△519
役務取引等利益	1,279	△77	860	△56	251	△48
その他業務利益	242	142	172	70	65	72
うち国債等債券損益 ※	△29	△16	△12	△1	△16	△15
経費（△）	11,205	△351	5,782	△324	5,070	△68
コア業務純益 ※	2,633	△561	1,531	△148	1,101	△412
コア業務純益（除く投資信託解約損益） ※	2,544	△608	1,531	△148	1,012	△459
与信関係費用（△） ※	3,721	3,125	3,619	3,500	102	△374
株式等関係損益	△0	△75	△3	△5	2	△70
経常利益	△1,269	△3,665	△2,238	△3,634	964	△100
特別損益	△491	△445	△441	△442	△49	9
法人税等合計	2,302	1,562	1,993	1,579	267	△20
親会社株主に帰属する中間純利益	△4,068	△5,673	△4,673	△5,656	647	△70

※きらやか銀行、仙台銀行の2行合算計数です。

② 資金利益 – 外債ファンド評価損の抑制を優先、利息配当金が減少 –

- **有価証券利息配当金**は、急激な海外金利の上昇に伴い、両行保有の外債ファンド内で一時的に日本国債などの短期債券へ切り替えを行い、有価証券評価損の抑制を優先したことから、投資信託分配金が減少し、**前年同期比△12.2億円の10.9億円**となりました。
- **貸出金利息**は、**前年同期比+1.1億円の109.2億円**となりました。きらやか銀行は、シンジケートローン等の大企業向け貸出を減少させており、前年同水準の56.8億円。仙台銀行は、住宅ローンや中小企業向け貸出が増加し、前年同期比+1.2億円の52.3億円となりました。

(単位：億円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比
資金利益	121.0	△10.0	62.6	△4.8	58.3	△5.1
貸出金利息	109.2	1.1	56.8	△0.0	52.3	1.2
有価証券利息配当金	10.9	△12.2	5.5	△5.3	5.4	△6.8
預金利息 ※	0.7	△0.2	0.4	△0.1	0.2	△0.1
平均残高						
貸出金平均残高	18,665	243	9,856	△184	8,808	428
有価証券平均残高	5,429	△86	2,405	△21	3,024	△65
預金平均残高 ※	25,276	65	12,890	△140	12,385	205
利回り						
貸出金利回	1.17	△0.01	1.16	0.01	1.18	△0.03
有価証券利回	0.40	△0.44	0.46	△0.44	0.35	△0.44
預金利回 ※	0.00	△0.00	0.00	△0.01	0.00	△0.00

※預金には、譲渡性預金も含まれます。

③ 貸出金・預金 – 住宅ローンが大幅増、中小企業向け貸出も増加 –

- 2行合算の**貸出金残高**は、コロナ禍の影響を受ける事業者への継続的な資金繰り支援、仙台地区中心とした住宅ローン需要へ対応し、前年同月末比+160億円の**1兆8,675億円**となりました。
- きらやか銀行は、大企業向けシンジケート・ローンなどを減少させたことから、前年同期比△277億円の9,766億円となりました。仙台銀行は、中小企業向け貸出に加えて、住宅ローン需要に積極的に対応しており、過去最高の残高8,909億円となりました。
- 当社グループの**預金残高**は、前年同月末比△21億円の**2兆5,054億円**となりました。

(単位：億円)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2022年9月末	前年同月末比	2022年9月末	前年同月末比	2022年9月末	前年同月末比
貸出金残高	18,675	160	9,766	△277	8,909	437
中小企業向け貸出残高	10,680	56	5,910	△58	4,769	115
消費者ローン	5,549	388	2,453	13	3,095	375
うち住宅ローン	5,150	398	2,309	25	2,840	373
地方公共団体向け貸出	962	12	238	△26	724	39
預金残高（譲渡性預金含む）	25,054	△21	12,651	△290	12,402	269
個人預金	16,190	113	8,673	△142	7,516	256
法人預金	6,325	△85	3,552	△121	2,772	35
公金預金	2,489	△42	407	△22	2,082	△20

④ 有価証券 – 海外金利が急上昇、その他有価証券の評価損が拡大 –

- 2行合算の**有価証券残高**は、国債などが期日償還や売却などにより減少し、前年同月末比△475億円の**5,081億円**となりました。
- きらやか銀行と仙台銀行は、SBIグループと連携し、北米地域や欧州地域の国債・地方債など、信用力の高い外債ファンドを保有しておりますが、海外金利の急激な上昇により、両行の**その他有価証券の評価損**が拡大し、△**311億円（2行合算）**となりました。
このため、両行は、評価損のさらなる拡大を抑制するため、一時的にファンド内で日本国債などの短期の債券へ切り替えを行っております。
- 今後も、SBIグループと連携し、再度、ファンド内にて信用力の高い海外債券（北米、欧州地域の国債等）に投資を行い、その収益の一部を評価損の解消に順次充当することで、中長期的な解消に取り組んでまいります。

（単位：億円）

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2022年9月末	前年同月末比	2022年9月末	前年同月末比	2022年9月末	前年同月末比
有価証券残高	5,081	△475	2,209	△248	2,871	△227
国債	47	△71	0	△103	47	32
地方債	433	△91	75	△5	358	△86
社債	721	△5	406	△7	314	1
株式	82	1	64	0	18	0
その他証券（海外債券：国債・地方債等）	3,795	△307	1,662	△132	2,133	△175
その他有価証券の評価損益	△311	△301	△173	△136	△137	△165
株式	2	0	2	0	0	△0
債券	△10	△10	△7	△7	△2	△2
その他	△303	△291	△168	△129	△135	△162

⑤ 役務取引等利益 – 生命保険販売手数料、法人向け定額サービス手数料が増加 –

- 2行合算の役務取引等利益は、前年同期比△105百万円の**1,112百万円**となりました。
- 預かり資産手数料は、生命保険販売手数料が増加しましたが、市況変動の影響を受け、SBIマネープラザ手数料が減少となりました。
- 法人向け手数料は、定額サービス手数料（WEBプラットフォーム、福利厚生サービス等）、業務提携手数料が増加しています。

(単位：百万円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比
役務取引等利益	1,112	△105	860	△56	251	△48
役務取引等収益	3,025	△123	1,619	△97	1,406	△26
受入為替手数料	716	△166	395	△73	321	△92
預かり資産手数料	726	△48	307	△22	419	△26
（うち 投資信託販売手数料）	56	△84	13	△25	42	△58
（うち SBIマネープラザ手数料）	56	△126	27	△9	28	△116
（うち 生命保険販売手数料）	570	156	265	13	305	142
法人向け手数料	356	△12	257	△34	99	21
（うち 私募債発行手数料）	35	△42	24	△44	10	2
（うち 業務提携手数料）	92	5	34	△25	58	31
（うち 定額サービス手数料）	221	42	197	35	23	6
その他	1,226	103	659	33	566	69
役務取引等費用	1,913	△18	758	△40	1,154	21
支払為替手数料	168	△76	117	△38	51	△38
個人ローン保証料	754	△15	180	△3	574	△11
その他（住宅ローン団体生命保険料等）	990	73	460	1	529	71

⑥ 経費、経営効率化 – 店舗戦略・業務効率化・人員戦略 –

- 当社グループは、経営効率化に向けて「店舗戦略」「業務効率化」「人員戦略」を一体で推進しております。2行合算の経費は、人件費と物件費が減少し、前年同期比△392百万円の10,853百万円となりました。
- 「店舗戦略」については、きらやか銀行は、店舗内店舗方式（ブランチ・イン・ブランチ）による統合は、過去1年間で1カ店のみでしたが、抜本的な業績改善に向けて、今後、計画的に店舗統合を進め、人員再配置と効率化をさらに進めてまいります。
- 「人員戦略」については、「店舗統廃合」「業務効率化」による創出人員を営業担当へ再配置する一方、全体の人員数は両行合算で前年同期比△93名となりました。これにより人件費は、前年同期比△220百万円となっております。
- コアOHRは、前年同期比2.60ポイント上昇し、80.47%となりました。経費が減少しましたが、有価証券利息配当金の減少等により、資金利益が減少したことが要因です。

(単位：百万円、店舗、人、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比
経費	10,853	△392	5,782	△324	5,070	△68
人件費	5,319	△220	2,821	△155	2,498	△64
物件費	4,613	△179	2,488	△153	2,124	△26
税金	920	7	473	△15	447	22
店舗数 (ブランチ・イン・ブランチ形式での実質店舗数)	102	△1	53	△1	49	0
人員数	1,473	△93	765	△68	708	△25
コアOHR	80.47	2.60	79.05	0.64	82.15	4.91

与信関係費用、金融再生法開示債権 – 大口与信先の引当金を計上 –

- 2行合算の与信関係費用は、きらやか銀行における特定の大口与信先の業績不振により、当該先に関連する引当金を計上したことなどから、**前年同期比+3,125百万円**の3,721百万円となりました。
- 金融再生法開示債権は、前年同期比+11,455百万円の57,659百万円。不良債権比率は、3.02%となりました。

(単位：百万円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比
	与信関係費用	3,721	3,125	3,619	3,500	102
内一般貸倒引当金繰入額	652	1,054	652	805	-	249
内個別貸倒引当金繰入額	2,863	1,943	2,863	2,643	-	△699
金融再生法開示債権残高	57,659	11,455	30,173	8,776	27,486	2,679
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,645	2,015	4,916	1,866	1,729	148
危険債権	43,730	8,367	21,573	5,809	22,156	2,558
要管理債権	7,283	1,072	3,683	1,100	3,599	△28
不良債権比率	3.02	0.57	3.00	0.93	3.05	0.15

(単位：百万円、%)

	2行合算			きらやか銀行			仙台銀行		
	債権額	保全額	保全率	債権額	保全額	保全率	債権額	保全額	保全率
	金融再生法開示債権の保全	57,659	46,078	79.91	30,173	20,914	69.31	27,486	25,164
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,645	6,645	100.00	4,916	4,916	100.00	1,729	1,729	100.00
危険債権	43,730	35,795	81.85	21,573	14,320	66.38	22,156	21,474	96.92
要管理債権	7,283	3,637	49.95	3,683	1,677	45.53	3,599	1,960	54.46

⑧ 自己資本比率、ROE - 連結自己資本比率 8.09% -

■連結自己資本比率は、リスク・アセット（分母）が減少する一方で、赤字決算により自己資本（分子）も減少したことから、前年同月末比0.04ポイント低下し、**8.09%**となりました。

■ROEは、赤字決算により、中間純利益ベースで△10.64ポイントの△7.74%となりました。

（単位：百万円、%）

	連結		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2022年9月末	前年同月末比	2022年9月末	前年同月末比	2022年9月末	前年同月末比
自己資本	111,637	△708	59,817	△2,204	52,685	1,356
リスク・アセット等	1,378,950	△2,522	724,350	△32,109	649,737	29,498
自己資本比率	8.09	△0.04	8.25	0.06	8.10	△0.17

（単位：%）

	2行合算		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比	2022年9月期	前年同期比
ROE（業務純益ベース）	3.75	△2.37	3.40	△2.20	4.08	△2.70
ROE（中間純利益ベース）	△7.74	△10.64	△18.35	△21.37	2.44	△0.32

⑨ 中期経営計画目標と実績 – 赤字決算で目標と乖離、業績回復へ向けて傾注 –

- 当社グループは、有価証券利息配当金の減少、きらやか銀行の大幅な赤字決算によって、グループ中間決算が大幅赤字となりました。また、通期業績予想についても赤字決算を見込んでおります。
- このためグループ中期経営計画（2021年4月～2024年3月）の進捗は、当初目標に対して乖離が生じております。この状況を踏まえ、当社グループは、2022年9月2日に公表しましたとおり、「じもとグループ業績回復への取組み」を策定しました。改善策を徹底して実行することで、早期の業績回復を図ってまいります（※詳細はP16～P18をご覧ください）。

(単位：億円、%)

	連結		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2023年3月期 計画	2022年9月期 実績	2023年3月期 計画	2022年9月期 実績	2023年3月期 計画	2022年9月期 実績
コア業務純益 ※1	62	25	32	15	33	10
経常利益	48	△12	20	△22	27	9
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	37	△40	17	△46	20	6
貸出金平残	18,702	18,665	10,081	9,856	8,620	8,808
預金平残	25,052	25,276	12,854	12,890	12,197	12,385
自己資本比率	8.1程度	8.09	8.3程度	8.25	8.0程度	8.10
コアOHR ※2	78.7	80.4	79.0	79.0	75.3	82.1
ROE	3.0	△7.7	2.6	△18.3	3.6	2.4
顧客向けサービス業務利益 (2行合算) ※3	19	10	8	5	10	4

※1、2 投資信託解約益等（投資信託解約益＋債権売却益）を除く。

※3 顧客向けサービス業務利益 = 貸出金残高 × 預貸金利回差 + 役務取引等利益 - 営業経費。2行合算としております。

⑩ 2023年3月期 業績予想と配当予想

- 連結業績予想（2023年3月期）は、2022年9月2日に公表しましたとおり、経常利益△8億円、親会社株主に帰属する当期純利益△40億円を見込んでおります。
- 年間配当金（2023年3月期）は、通期業績予想が赤字見通しとなるため、普通株式1株あたり15円（前年比△5円）を予定しております。

<業績予想>

（単位：百万円）

	連結		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2023年3月期 予想	2022年3月期 実績（参考）	2023年3月期 予想	2022年3月期 実績（参考）	2023年3月期 予想	2022年3月期 実績（参考）
経常利益	△800	4,486	△2,200	1,976	1,300	2,434
親会社株主に帰属する当期純利益	△4,000	2,585	△4,900	1,078	800	1,506

<普通株式・配当予想>

（単位：円、1株あたり）

	中間	期末	年間
2023年3月期	7円50銭	7円50銭	15円00銭
2022年3月期（参考）	10円00銭	10円00銭	20円00銭

2. 中期経営計画の進捗状況

① 経営理念と目指す姿

- 当社グループの経営理念は、「宮城と山形をつなぎ、本業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」ことです。
- 中期経営計画（2021年～2023年）では、コロナ禍の対応を重要課題とし、次の5年・10年後も見据えて「本業支援の深化」「業務変革（DX）」「経営管理」を計画の3本柱としております。
- 当社グループは、本計画を通じて、これまで以上にお取引先の業況改善や地域発展に貢献することで、当社グループの収益改善にもつなげる「共通価値の創造」を実現すべく、全力で取り組んでおります。



② 本業支援

- 当社グループは、コロナ禍が中長期化するなか、取引先との面談を徹底し、経営改善・事業支援、信頼関係の構築につなげております。
- 当社グループの最重点エリアである仙台地区においては、地元企業の様々な資金ニーズに積極的かつ迅速に対応しております。
- ビジネスマッチングは、コロナ禍の影響で対面の商談会が減少。ECサイトでのビジネスマッチングなど新たな手法を導入しております。

中小企業成長戦略の深化

きらやか銀行

中小企業「営業キャッシュフロー改善」

経営者との面談徹底、経営改善を支援

- ◆ 経営デザインシートを活用
- ◆ ローカルベンチマークを活用

企業支援部を新設

ウィズコロナを見据え、経営改善支援
事業再生支援に特化した部隊を新設

仙台銀行

「本業支援ミーティング」の継続

- ◆ ファイナンスニーズ
- ◆ 本業支援ニーズ

SDGs取組支援、DXなど、ニーズに
対応した本業支援メニューを拡充

仙台地区営業戦略

中小企業貸出平均残高

2022年上期	4,749億円
対前年同期比	増加 161億円
伸び率	3.5%

仙台地区営業戦略会議
グループ支店長が参加

きらやか銀行本業支援部
法人推進室を新設

ビジネスマッチング (2022上期)

宮城と山形をつなぐ

紹介実績	42件 (前年同期比△19件)
成約実績	2件 (前年同期比 △7件)

じもとまつり開催 (山形市と連携)

きらぼしFG連携 (東京)

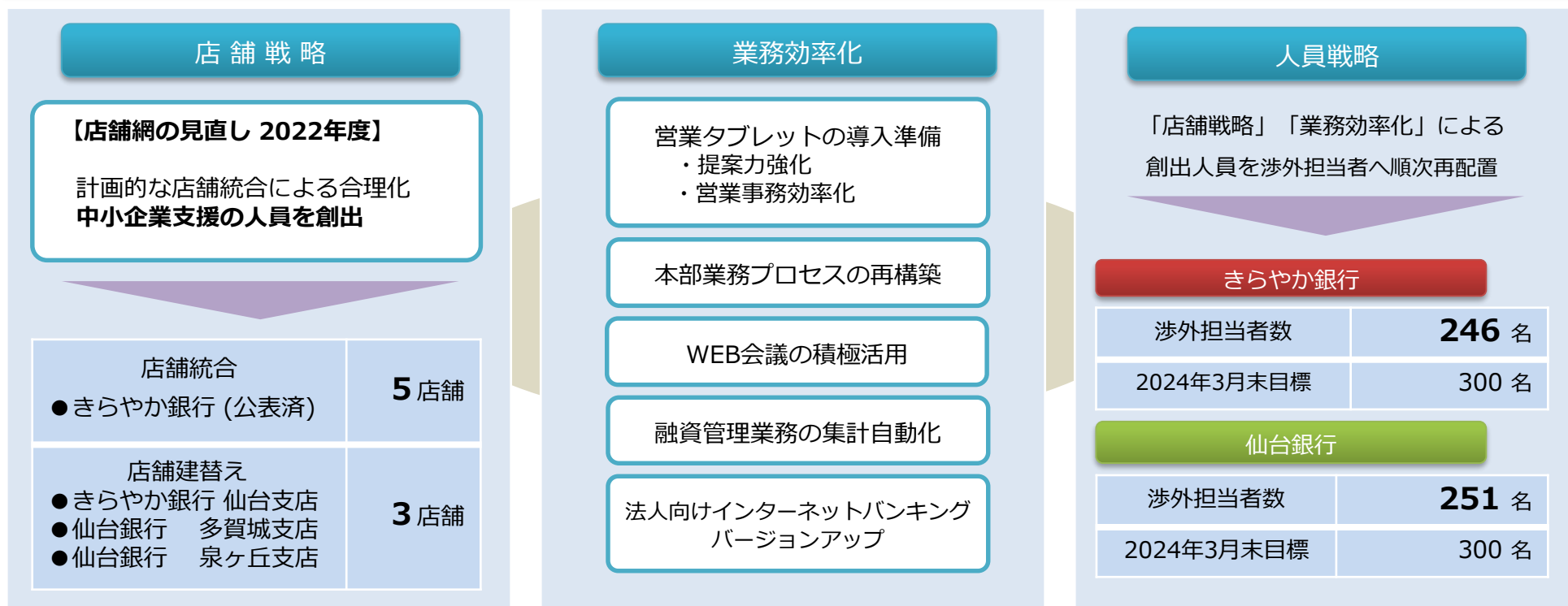
紹介実績	33件 (前年同期比+14件)
成約実績	19件 (前年同期比 +7件)

首都圏と宮城・山形を広域ネットですなぐ

③ 業務変革（DX）

- 当社グループは、コロナ禍による社会経済の変化、急速なDXの進展などの環境変化に応じた、スピード感ある業務変革を重要課題としております。
- 「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」を一体で進め、経営資源を効率的に再配分し、営業体制の増強につなげております。SBIグループの知見やノウハウも積極活用し、新たな金融サービスの提供や業務の再構築に取り組んでおります。

「店舗戦略」「業務効率化」「人員戦略」を一体で推進



SBIグループ連携の積極活用

④ 経営管理

- グループ営業体制の再構築、リスク管理強化、社外取締役の知見活用を通じて、ガバナンス態勢の強化と実効性向上に取り組んでいます。
- また、多様な人材が活躍できる職場環境を目指して、働き方改革や人材育成の取り組みを積極的に進めております。
- SBIグループへ当社グループの若手職員を派遣し、有価証券運用管理、DX・IT、M&A分野等において人事交流を拡大しております。

経営管理態勢の高度化

法人営業体制の統一

子銀行の営業組織を再編・統一化。
ノウハウ共有と効率化をさらに進展。

個人営業企画を集約

企画・立案機能をHDに集約。
SBIグループ、新生銀行と連携深化。

リスク管理態勢の強化

有価証券運用、信用リスク管理など
HD関与を深め、グループ管理を強化。

社外取締役の知見活用

本部職員との面談、営業店訪問を実施、
社外取締役の知見をさらに活用。

新しい働き方・人材育成

子育て支援

育児休暇取得者の職場復帰を支援、
WEBフォローアップセミナー開催。

女性・若手職員の活躍推進

女性リーダー育成研修開催。

ワーク・ライフ・バランス

適正な勤務時間管理を実施。

ビジネスカジュアル

特定日運用から全日実施へ移行。

DX人材育成

「ITパスポート」取得を支援。

ESG / SDGs

サステナビリティ

- ◆グループのサステナビリティ基本方針策定。
- ◆グループ役員・SDGs研修開催。
- ◆支店長会議・サステナビリティ方針を周知。

次世代へ向けた人事交流

SBIグループ

- ◆SBIグループへ職員をトレーニー派遣
(有価証券、DX・IT、M&A等)。
- ◆SBIマネープラザ共同運用を通じて、
職員交流、ノウハウ吸収。

⑤ SBIグループとの主な連携状況

- 当社グループでは、SBIグループとの連携を積極活用し、本業支援、業務変革、経営管理、人材育成の各分野で提携効果を発揮しております。
- 2020年11月に資本業務提携を締結以来、SBIグループから110提案を受け、52施策を実施しております。

SBIグループとの主な提携実績

法人戦略

- ◆無料ECサイト構築支援
- ◆電子稟議ワークフロー導入支援
- ◆事業性ローン団信取扱
- ◆DX関連オンラインセミナー開催
- ◆助成金、補助金申請支援
- ◆DXデータベース

地方自治体支援

- ◆地域通貨(プレミアム商品券)の電子化

個人戦略

- ◆住宅ローン団信
- ◆がん保険
- ◆銀行代理業による住宅ローン
- ◆個人版確定拠出年金
- ◆DX関連オンラインセミナー開催
- ◆投資信託商品

ガバナンス

- ◆SBIより社外取締役1名が就任
- ◆SBIよりオブザーバー2名が会議参加



×



コスト削減

- ◆SBI共通ATMの移行の機関決定
- ◆じもとHD役員賠償責任保険見直し
- ◆SBIビジネス・イノベーターのノウハウ活用

有価証券運用

- ◆子銀行有価証券ポートフォリオ再構築

SBIマネープラザ

- ◆共同店舗運営、資産運用提案の向上
- ◆相続に係るコンサルティング業務の強化

人材トレーニー派遣

- ◆SBIネオファイナンシャルサービシーズ (FinTech)
- ◆SBIアセットマネジメント (有価証券運用・管理)
- ◆SBI証券 (M&A)
- ◆SBIホールディングス社長室ビッグデータ担当 (AI・DX)

ファンド出資

- ◆SBIインベストメント組成ファンド出資

⑥ グループ業績改善への取組み（じもとホールディングス 2022年9月公表）

- じもとホールディングスは、2022年度通期の赤字決算予想を踏まえ、営業組織の統一と集約、SBI連携によるDXの推進、リスク管理態勢の強化を通じて、子銀行に対する経営管理態勢をさらに強め、グループ全体の業績改善を牽引してまいります。

強いリーダーシップでグループを牽引

営業体制

法人営業体制の統一

- ◆グループが特化する業務（中小企業支援）の明確化、経営資源の集中
 - ◆審査ノウハウの共有、グループ内での効率化
 - ◆SBIグループ及び新生銀行との連携深化
- 主力分野の中小企業支援体制を強化

個人営業企画のHD集約

- ◆じもとホールディングスにおいてグループ戦略を企画・立案
 - ◆グループでノウハウを集約・蓄積
 - ◆SBIグループ及び新生銀行との連携をさらに深化
- 両行の個人営業対応力の向上とスピードアップ

DX（SBI連携）

SBI共通ATM

- ◆SBIグループ提供の共通ATMへの移行を両行が決定
 - ◆新紙幣が発行される2024年頃導入
- グループ全体でコスト削減の見通し

経費システム

- ◆SBIグループが提供する経費システムを両行で導入検討
 - ◆インボイス制度を見据えての対応
- ペーパーレス化、業務効率化

リスク管理

信用リスク

- ◆適切で計画的な引当金管理
 - ◆コロナの影響を受けている事業者の現況把握、経営改善支援
 - ◆温泉旅館業や観光サービス業の再生に向けたリスクテイク
- コロナ禍を踏まえた信用リスク管理強化

市場リスク

- ◆リスク許容度の再設定
 - ◆モニタリング指標追加による実効性のあるモニタリング体制の確立
 - ◆SBIグループとの双方向のリスクコミュニケーション
- 有価証券ポートフォリオの再構築における市場リスク管理強化

⑥ グループ業績改善への取組み（きらやか銀行 2022年9月公表）

- きらやか銀行は、当行のアイデンティティである中小企業支援により特化し、コロナ禍の影響を受ける地元中小企業にさらに寄り添い貢献する態勢を再構築するため、営業戦略や店舗網等の組織再編等、抜本的改革に取り組んでまいります。
- 併せて、経営体質強化のため、抜本的な経費削減、有価証券運用態勢の再構築に取り組み、じもとグループ及びSBIグループとの連携を強化することで、早期の業績回復と経営安定化を実現してまいります。

目指す姿

「中小企業支援」に特化

－ 真に顧客に寄り添い、本来の金融仲介機能を発揮 －

「変わらないもの」＝ きらやか銀行アイデンティティ（私たちの想い）

本業支援を通して、地元の『中小企業』と『そこに働いている従業員の皆さま』から
喜んでいただき 地域と共に生きること

「変えていくもの」＝ きらやか銀行のアクション

中小企業支援への傾注

営業戦略
見直し

本部組織
再編

店舗網
見直し

抜本的な経費削減

役員
報酬
削減

硬式野球部
無期限休部

物件費
削減

有価証券運用態勢の再構築

ポートフォリオ再構築
運用収益の一部、評価損へ充当
中長期的な評価損の解消へ

⑥ グループ業績改善への取組み（仙台銀行 2022年9月公表）

- 仙台銀行は、トライアングル戦略（本業支援、業務変革、経営管理）に更に磨きをかけ、顧客ニーズにスピーディーに対応することで、経営基盤の強化につなげてまいります。また、有価証券運用態勢の再構築により、有価証券評価損の解消に努めてまいります。

トライアングル戦略を磨き上げ、経営基盤を強化

コア戦略の更なる推進

- ◆ スピード対応による顧客基盤強化
- ◆ オーダーメイド型融資による多様な資金ニーズへの対応
- ◆ チャンネルの拡充、強化による顧客ニーズへの対応

複合取引の拡充

- ◆ SDGs取組支援サービスの体制強化
- ◆ SBI連携による資産運用・相続対応強化

経費削減

- ◆ 業務プロセス見直しを伴う効率化

有価証券運用態勢の再構築

- ◆ ファンド内で短期債への切替、評価損拡大を抑制済
- ◆ 今後、ファンド内で再投資を実施
- ◆ 運用収益一部を評価損の中長期的な回復へ順次充当

トライアングル戦略

効率化・選択と集中

IT・FinTechの活用
新分野への取組み

コア戦略の推進
中小企業向け貸出増強

➤ 金融仲介機能の更なる発揮

共通価値の創造

- ◆ 取引先や地域社会の持続的な発展
- ◆ 仙台銀行、グループの企業価値向上

⑦ 2023年度収益見通し（2022年9月公表）

- 当社グループは、経費削減や営業体制の再構築をはじめとする抜本的な収益改善策に迅速に取り組むことで、2023年度は黒字決算（V字回復）を目指してまいります。
- また、中長期的な視点での改善策を継続して実施し、グループ全体の中長期的な業績向上に取り組めます。

きらやか銀行 収益見通し			仙台銀行 収益見通し		
	2023年度 見通し	2022年度 対比		2023年度 見通し	2022年度 対比
貸出金利息	113億円	△0億円	貸出金利息	112億円	+6億円
有価証券利息	8億円	+1億円	有価証券利息	6億円	+0億円
役務収益	34億円	+0億円	役務収益	29億円	+0億円
経費	114億円	△3億円	経費	100億円	△0億円
コア業務純益 (投信解約益除く)	31億円	+4億円	コア業務純益 (投信解約益除く)	23億円	+5億円
経常利益	12億円	+33億円	経常利益	18億円	+5億円
特別損失	-億円	△6億円	特別損失	0億円	+0億円
法人税等調整額	0億円	△18億円	法人税等調整額	-億円	△0億円
当期純利益	7億円	+56億円	当期純利益	12億円	+3億円
<与信関係費用>	17億円	△27億円	<与信関係費用>	4億円	△0億円

3. じもとグループのサステナビリティ (サステナビリティ活動報告)

① サステナビリティ基本方針

- 当社グループは、2021年12月に「サステナビリティ基本方針」を制定、2022年4月に「サステナビリティ推進グループ」を設置しました。
- 持続可能な社会の実現に向けて、役員研修や支店長会議でグループ方針を周知し、本業支援と各主要課題に取り組んでおります。

サステナビリティ基本方針

じもとグループは、地域金融グループとして「宮城と山形をつなぎ、本業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」ことを経営理念としております。

この経営理念に基づく事業活動を通じて、取引先や地域社会の持続可能な発展に貢献し、併せて、当社グループの中長期的な企業価値の向上にもつなげていく「共通価値の創造」の実現を目指してまいります。

1. じもとグループは、「本業支援」を通じて、宮城県と山形県の地元中小企業が直面する、地域経済の縮小、人口の減少・高齢化、後継者問題などの中長期的な課題への対応、業況の改善に取り組んでまいります。
2. じもとグループは、環境問題、職員の健康・労働環境の改善や公正・適切な処遇、人権尊重、東日本大震災の被災経験等を踏まえた危機管理などに取り組んでまいります。
3. じもとグループは、国連が提唱するSDGsの趣旨に賛同し、持続可能な地域社会の実現に向けて、外部連携も活用しながら、社会的な課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

本業支援を通じた取引先への取組み
(金融機関としてなすべきこと)

主要課題への取組み
(上場企業としてなすべきこと)

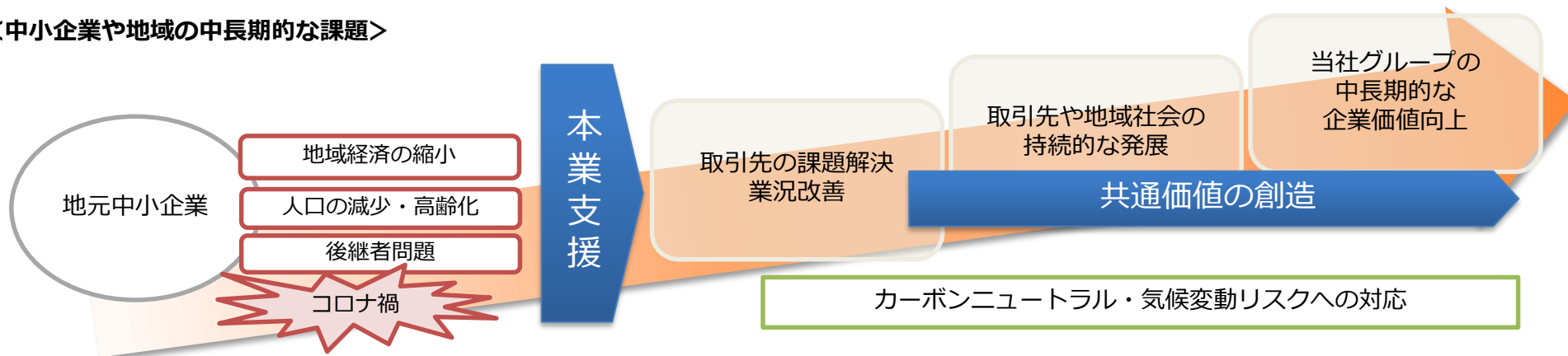
取引先や地域社会の持続可能な発展に貢献
当社グループの収益改善

「共通価値の創造」の実現へ

② 本業支援を通じたサステナビリティ

- 当社グループは、本業支援を通じて、地元中小企業や地域の中長期的な課題の解決に対応。取引先や地域社会の持続的な発展に貢献することで、当社グループの企業価値を向上させてまいります。

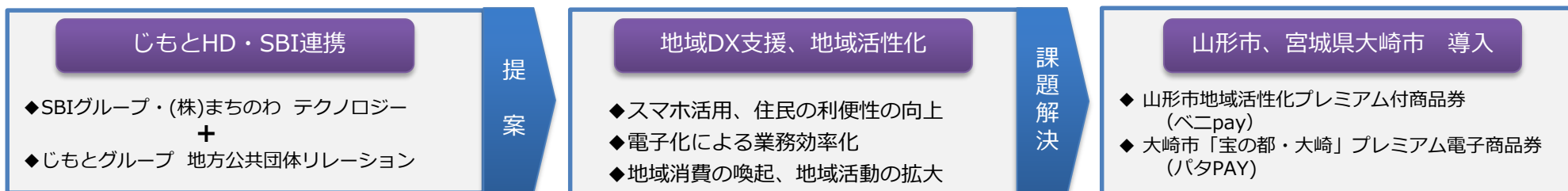
<中小企業や地域の中長期的な課題>



<課題解決への取組み>

新型コロナ禍の影響	地域経済の縮小	人口の減少・高齢化	後継者問題
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 取引先への訪問、面談の徹底 ◆ スピード重視の資金繰り支援 ◆ 事業再構築補助金の申請支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県境を越えた新たな商機創出 ◆ 地公体へ電子地域通貨支援 ◆ サステナブル関連融資 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中小企業のデジタル化支援 ◆ 企業主導型保育施設の設置 ◆ 外国人技能実習生の受入れ支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 次世代の地域経営者の育成 ◆ 経営人材の紹介、婚活支援 ◆ 事業承継・M&A支援

<地公体へ電子通貨支援>



③ 主要課題への取組み

- 当社グループは、上場企業、地域企業として取り組むべき、サステナビリティの5つの課題を設定して取り組んでおります。
- 従業員や取引先など、多様なステークホルダーとの良好な関係を構築することを通じて、持続可能な社会の実現を目指しております。

主要課題 1 気候変動などの地球環境問題

項目	取組み状況
再生可能エネルギーの利用（店舗設備）	【利用実績】 4,522千kwh／年（101カ店のうち64カ店で利用） ※2021年度グループ実績
電力消費量削減	【削減実績】 △410千kwh／年 ※2021年度グループ実績
照明設備のLED化	【実施率】 57.4%（101カ店のうち58カ店で実施） ※2022年9月末現在
通年輕装勤務（クールビズ／ウォームビズ）の導入	じもとHD、きらやか銀行、仙台銀行の3社とも導入済み
気候変動リスクへの対応	外部説明会の受講等による情報収集

主要課題 2 人権の尊重

項目	取組み状況
通報相談窓口等の体制整備	内部通報窓口、ハラスメントに係る相談窓口を設置。通報先に外部弁護士を追加。ハラスメント事案の発生防止、早期発見に取り組んでおります。
研修を通じた職員への啓蒙	職場でのハラスメント予防、コンプライアンスの各種研修を実施しております。 【きらやか銀行】 コンプライアンス研修4回／管理職対象研修3回／職場研修3回 【仙台銀行】 管理職対象研修1回／次長課長補佐対象研修1回／職場研修6回 ※期間：2022年4月～2022年9月

③ 主要課題への取組み

主要課題 3 従業員の健康・労働環境への配慮や公正・適切な処遇

項目	取組み状況
健康・労働環境	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働時間の削減、勤務間インターバル制度、有給休暇の取得推進など、ワークライフバランスの実現に向けて勤務時間の適正な運用管理を実施しております。 健康診断とストレスチェック（各年1回）、産業医・保健師等の相談窓口により、職員の心身の健康管理を実施しております。
公正・適切な処遇	<ul style="list-style-type: none"> 職員毎の目標管理、能力考課を柱とした人事考課制度を運用。 併せて、職員の自発的な能力開発に向けたサポート体制を整備しております。

主要課題 4 取引先との公正・適正な取引

項目	取組み状況
規程や担当部署等の体制整備	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスマニュアル、利益相反管理方針等の制定（守秘義務、説明義務・適合性の原則、苦情・相談・トラブルへの対応、善管注意義務と顧客財産保護、顧客との癒着排除等） コンプライアンス委員会でのルール遵守状況チェック、問題事案への対応 苦情受付窓口の設置
研修を通じた職員への啓蒙	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスプログラム、コンプライアンス研修の実施

主要課題 5 自然災害等への危機管理

項目	取組み状況
事業継続体制	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画（地震発生、大規模災害、感染症発生時）を策定し、定期的に災害訓練を実施しています（年2回）。 営業店への自家発電装置、止水板の設置など、災害に強い設備を整備しています。
災害発生時の業務運営	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の銀行取引の特例措置への迅速な対応（現金払出し、小切手・手形決済、喪失通帳の再発行、各種手数料の減免等）

④ 人事戦略、投資

人材育成の取組み

- 当社グループは、銀行業務の拡大や働き方改革が進展する中、様々な選択肢をもった人事制度を構築し、性別や採用経緯等に関わりなく、多様な人材が活躍し、能力を発揮できるよう人材育成に取り組んでおります。
- 研修受講やSBIグループとの人事交流については、公募制を導入するなど、職員に対して均等な教育機会を提供しております。

人材育成	取組み状況
能力開発	階層別研修、本業支援実践力行内認定資格制度、行内FPスクール
女性の活躍促進	じもとホールディングス女性活躍推進ワーキング会議を開催
外部連携	SBIグループとの人事交流の実施（有価証券運用、DX、M&A、ビッグデータ・AIヘトレーニー派遣）

	管理職に占める女性職員割合 (2022年10月1日現在)	正職員に占める 女性職員割合	新規採用職員に占める 女性職員割合
きらやか銀行	9.3 % (11名/118名)	40.6% (327名/805名)	37.5% (6名/16名)
仙台銀行	12.8 % (18名/140名)	46.7% (345名/738名)	60.0% (12名/20名)

目標：15%以上（2026年3月末）

<参考> 当社グループでは、女性役員は1名（仙台銀行取締役監査等委員、内部昇格）となっております。

④ 人事戦略、投資

社内環境整備の取組み

- 当社グループは、少子高齢化、コロナ禍による社会経済の急変、DXの進展、新業務の拡大など環境変化が進展する中、スピード感をもって業務変革に取り組んでまいります。
- これらの環境変化に対応するためには、性別等に関わりなく、働き甲斐と働きやすさ、自己実現ができる環境を整備することが必要であり、当社グループは、「育児や介護との両立支援」や「新たな働き方・人材育成」の環境整備を進めております。

育児・介護の支援	取組み状況
休業制度等	育児休業、介護休業、短時間勤務の支援制度を完備
社会全体での子育て支援	育児休業の取得を促進（男性職員の取得も推奨）
育児休業者へのフォロー	フォローアップセミナーの開催、職場復帰事前面談・研修の開催
職場への復帰支援	企業主導型保育施設の設置、企業主導型保育事業者との保育園利用提携
勤務エリア	居住地域から通勤可能な範囲での転勤に限定できる勤務エリア選択制度を運用

多様な人材の活躍支援	取組み状況
正社員登用制度	非正規職員から正職員への登用制度を運用
ベテラン職員の活躍支援	定年後もシニア職員として勤務が可能な制度を運用
専門人材の育成	専門性の高い業務に従事するSPコースと営業職に特化するFCコースを設定
若手職員活躍支援	指導員制度による新入行員指導、企業訪問研修「チャレンジダイバーシティ制度」
キャリア・リターン制度	結婚、出産、育児、介護等で退職した元職員の再雇用制度を運用
旧姓の継続使用	職員の婚姻等による改姓後も旧姓をビジネスネームとして使用可能に

④ 人事戦略、投資

<ワーク・ライフ・バランス関連指標>

	年次有給休暇取得率 (2021年度)	平均残業時間 (2021年度/月間)	平均勤続年数 (2022年3月末現在)
きらやか銀行	52.4%	6.4時間	男性：21.2年 女性：16.0年
仙台銀行	50.9%	9.7時間	男性：15.5年 女性：9.1年

<主な表彰・認定実績>

きらやか銀行	やまがた子育て・介護応援いきいき企業「優秀（ダイヤモンド）企業」
	山形県ワーク・ライフ・バランス優良企業知事表彰（2015年度）
	均等・両立推進企業部門山形労働局奨励賞（2015年度）
	次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業「プラチナくるみん認定」
	イクボス宣言、やまがたイクボス同盟加盟
仙台銀行	宮城県 女性のチカラを活かす企業認証制度「ゴールド認証企業」
	宮城県いきいき男女にここ子育て応援企業 最優秀企業
	宮城県・宮城労働局 魅力ある職場づくりモデル企業表彰
	次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業「プラチナくるみん認定」
	イクボス宣言、イクボス企業同盟・みやぎイクボス同盟加盟
	みやぎ働き方改革実践企業認証
	厚生労働大臣女性活躍推進法「えるぼし認定」
	仙台市障害者雇用貢献事業者表彰

<知的財産への投資>

	主な実施状況
本業支援	<ul style="list-style-type: none"> きらやかマネジメントスクール（山形大学等と連携、次世代の地域経営者育成）／累計受講者173名（1～5期） 仙台銀行ビジネスクラブ次世代経営塾／累計受講者数45名（1～3期） 本業支援を通じた新たな金融サービスの開発等
外部連携	<ul style="list-style-type: none"> SBIグループとの連携によるDX等の金融テクノロジーの導入、吸収

⑤ トピックス（きらやか銀行）

中小企業支援体制の強化

◆コロナ禍の影響を受ける地元中小企業にさらに寄り添い、貢献するため、これまで以上に中小企業支援体制を強化し、特化してまいります。

- > 山形県や仙台地区を重点エリアとする営業戦略の強化
- > 店舗再編による本業支援人員の創出
- > 本部の営業組織再編など



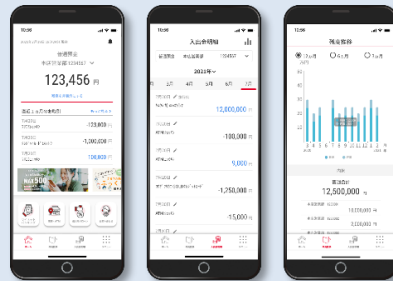
プラチナくるみん認定

- ◆2022年7月、山形労働局より、子育て支援に積極的な企業として、「プラチナくるみん」の認定を受けました。
- ◆2020年度に「くるみん」の認定を受けており、その後の「一般事業主行動計画」の実績が認められ、今回、ランクの高い「プラチナくるみん」の認定取得となりました。



「きらやかバンキングアプリ」開始

- ◆個人のお客さま向けに、きらやかバンキングアプリのサービスを2022年8月に開始しました。
- ◆入出金明細や普通預金口座の残高確認に加えて、本人確認システム（※eKYC）を活用し、アプリから簡単にWeb口座開設が可能となりました。



※eKYC：オンライン上での本人確認方法

当行硬式野球部へのご声援、ありがとうございました

- ◆当行硬式野球部は、地域の方々のご声援を受け、地域とともに成長してまいりました。
- ◆これまで山形県代表として、都市対抗野球本戦へ3度出場する機会を掴むことが出来ました。
- ◆2022年9月をもって休部となりましたが、これまで70年以上にわたり、応援をいただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。



⑤ トピックス（仙台銀行）

店舗グランドオープン

- ◆多賀城支店、泉ヶ丘支店を建替し、グランドオープンしました。
- ◆オープニングセレモニーでは、当行の地元応援すずめ組が、お祝いのすずめ踊りを披露しました。
- ◆新店舗は、明るい店内と広い駐車場を整備し、お客さまをお迎えしております。



フードドライブ

- ◆本店営業部1階にて、フードドライブを実施しました。
- ◆未使用食品を持ち寄り、フードバンク等の団体を通じて必要な方へ寄贈する活動です。
- ◆1か月間でたくさんの食品が集まり、必要とされている方のもとへ届けられました。



プレミアム電子商品券事業

- ◆SBIグループと連携し、大崎市のプレミアム電子商品券事業の業務引受をしました。
- ◆紙の商品券を買いに行けない方でも申込みできるなど、電子化による利便性の向上・効率化により、地域活性化につなげてまいります。



承認番号©2013大崎市#467

仙台銀行SBIコンサルティングプラザ

- ◆SBIマネープラザと共同事務所を開設し、運営を開始いたしました。
- ◆相続対策・手続きについて、お客さまの悩みをお聞きし、専門家を紹介するなど、オーダーメイドのコンサルティングを実施しております。



本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比で異なる可能性があることにご留意ください。

《当資料に関するお問い合わせ先》

株式会社 じもとホールディングス
総 合 企 画 部

TEL : 022-722-0011 (代表)

<https://www.jimoto-hd.co.jp>